

窒素と炭素の元素分析

本装置の概要

閃光燃焼法により試料中の窒素・炭素化合物を瞬間的に酸化した後に、還元と脱水を行って、窒素ガスと二酸化炭素に変換します。その後、GC カラムで分離し、熱伝導度検出器で窒素と炭素を定量します。測定には試料あたり0.1 mg 程度の乾燥粉末試料で解析が可能です。

利用する上での注意点

- 依頼解析を行います。
- サンプル数が多い(300 以上)ものは事前にご相談ください。試料数が多すぎる場合は、お断りする場合があります。
- 大規模スクリーニングは行いません。
- 明確な目的が無い試料の解析はお断りする場合があります。
- 試料封入カプセルの破損により内容物が漏出している試料は、装置を汚染する可能性があるため測定を行うことは出来ません。

利用の流れ

- ① 研究支援の事前に、目的とサンプル数、納期について打ち合わせ
- ② 研究支援の開始
- ③ 分析依頼試料の送付（送付方法：乾燥粉末試料は通常の宅配便で送付できます）
- ④ 分析依頼試料の秤量値テーブルの送付
- ⑤ 測定
- ⑥ データの納品（納品は、機器の予約・使用状況によって異なります。機器の状態が良ければ、一試料の測定に要する時間は6 分程度です）

試料の調製

- ① 採取後に、通風乾燥または凍結乾燥により乾燥試料をご準備ください。
- ② その試料を粉碎し、超微量精密天秤(1 μ g の精度で秤量してください)により試料を秤量し、錫などのカプセル(お問い合わせください)に確実に封入してください。清浄な底面に封入試料を転がすなどして、試料が漏出していないことをご確認ください。
- ③ 錫に封入された試料を96 穴プレートにまとめて、試料をご送付ください。
- ④ 同時に、試料の秤量値を表にまとめたファイルをご送付ください。

費用負担

- 試料の封入に必要なカプセルと試料の送付にかかる費用は、各自でご負担頂きますようお願い申し上げます。
- 年度を単位として、使用頻度に応じて、キャリアガスおよびメンテナンス費用と利用に関わる消耗品などについて利用者分担をお願い申し上げます。
- 明らかに過失と認められる試料の解析による故障については、該当する利用者で負担して頂きます。

下記のページもご覧ください (<http://tsc.tohoku.ac.jp>)

Authorship

- 原則として、依頼解析を行います。事前に支援担当者にご相談ください。
- また、本プログラムを利用して生じた研究成果等を公表する際は、分析に関わった方々を共著者としてください。

連絡先

東北大学大学院農学研究科

小島創一 : kojima@tohoku.ac.jp